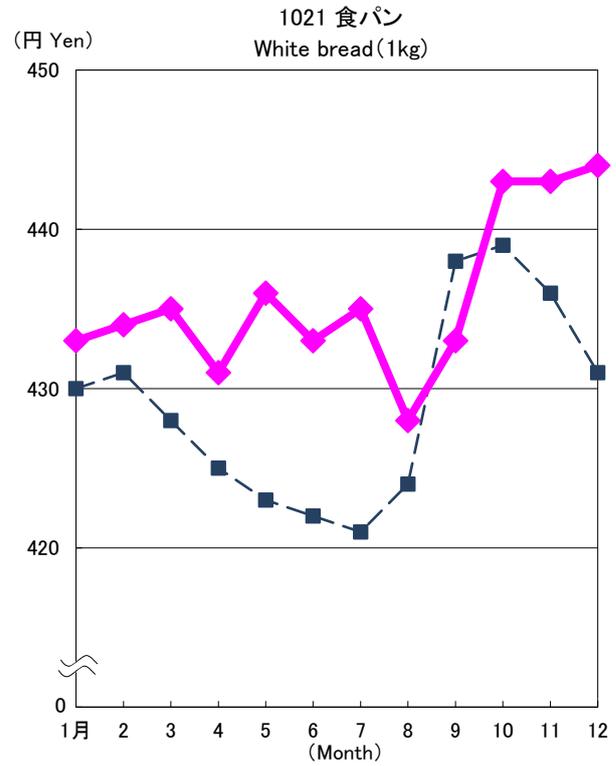
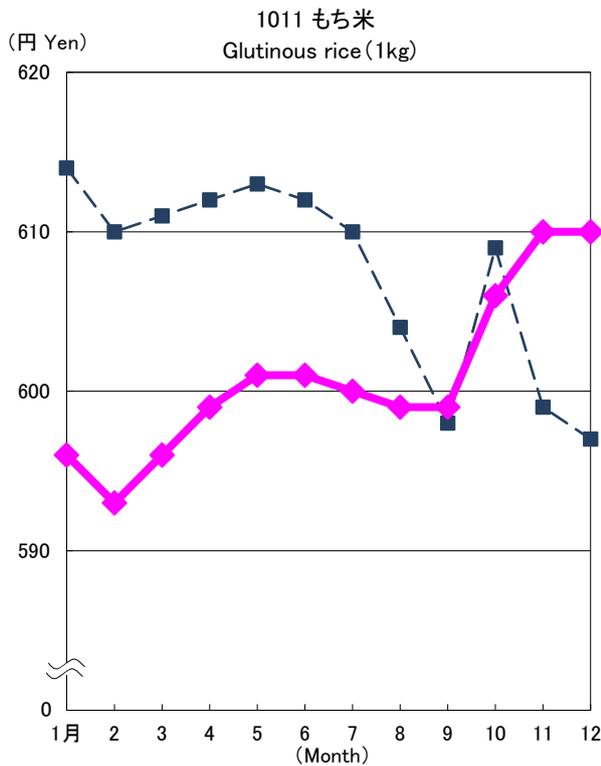
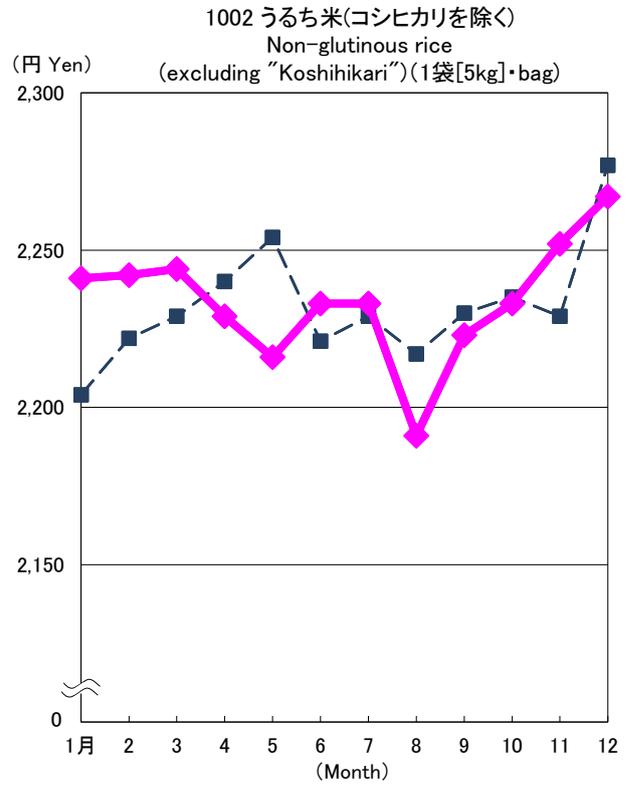
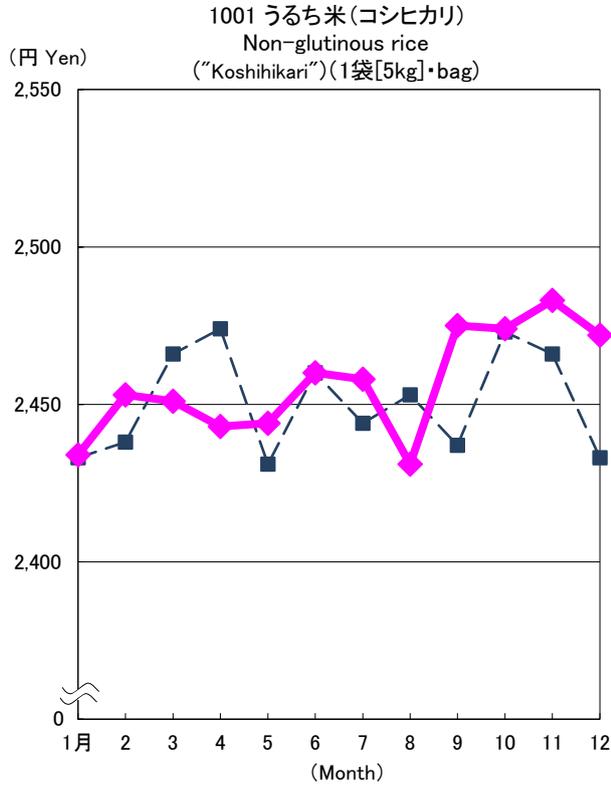


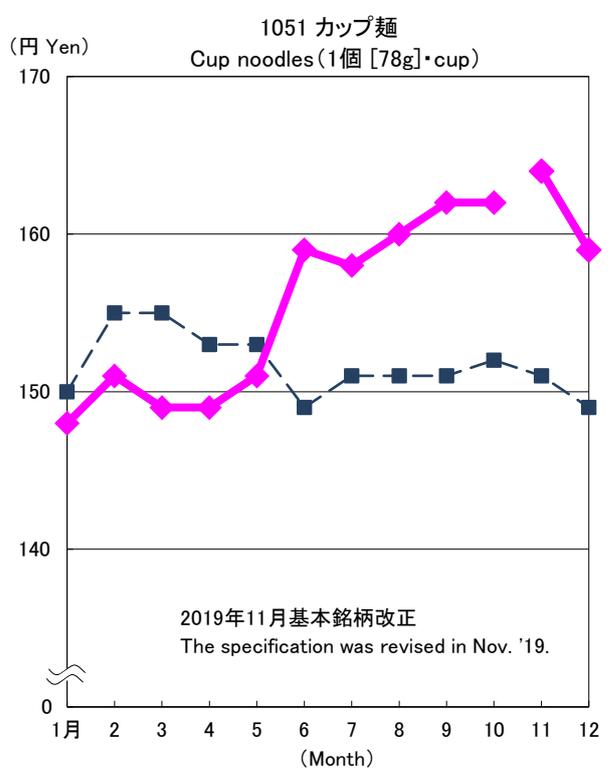
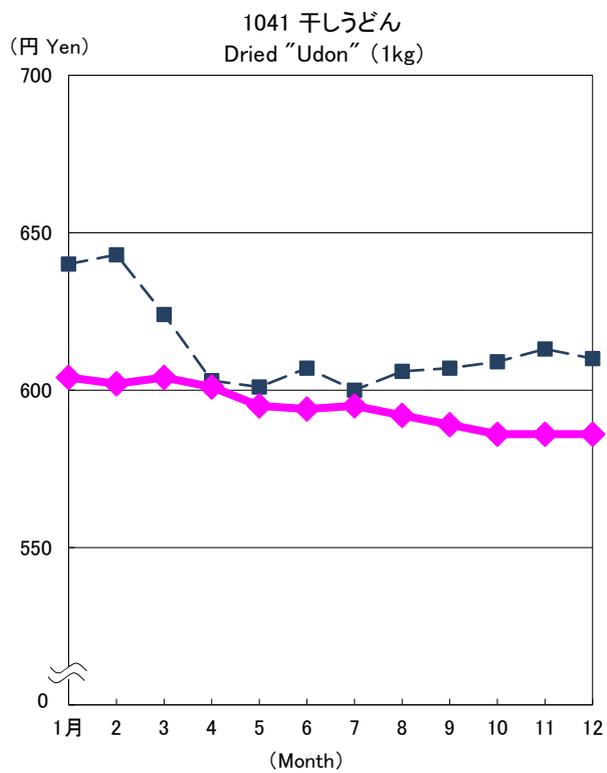
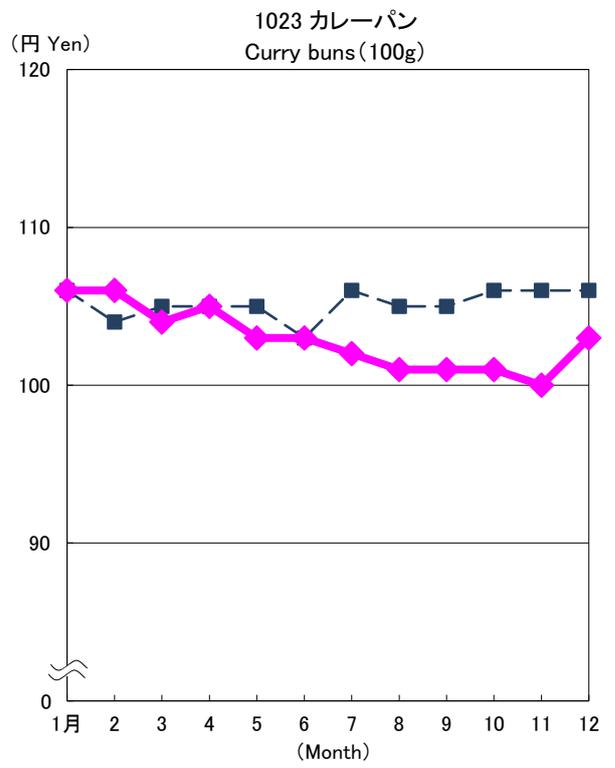
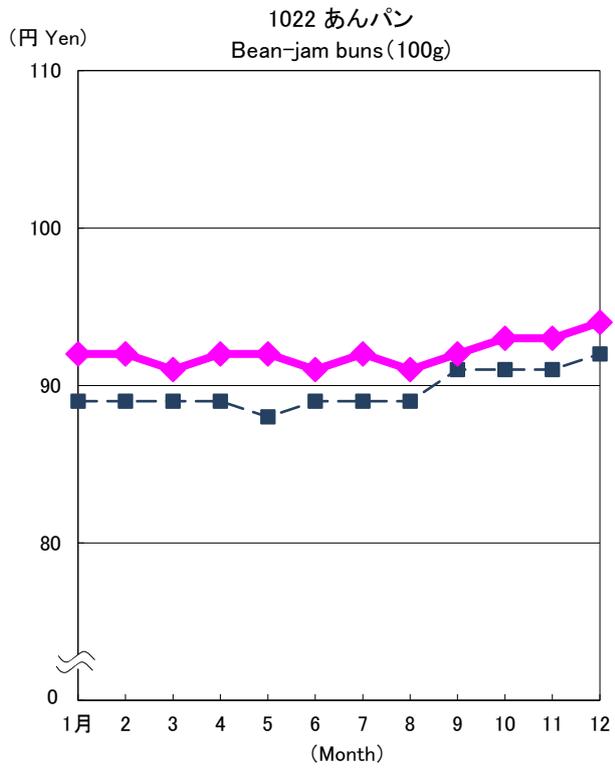
動-I 小売価格の動き-東京都区部-

T- I Changes in Retail Prices -Ku-area of Tokyo-

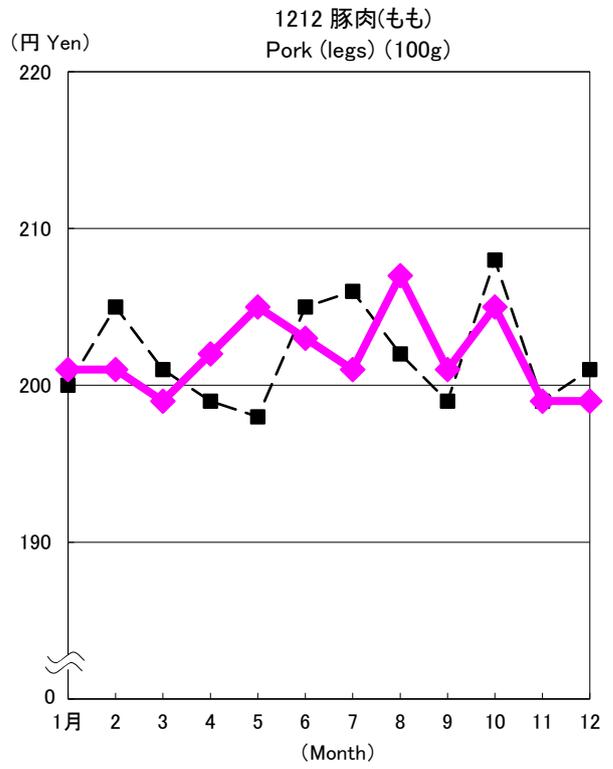
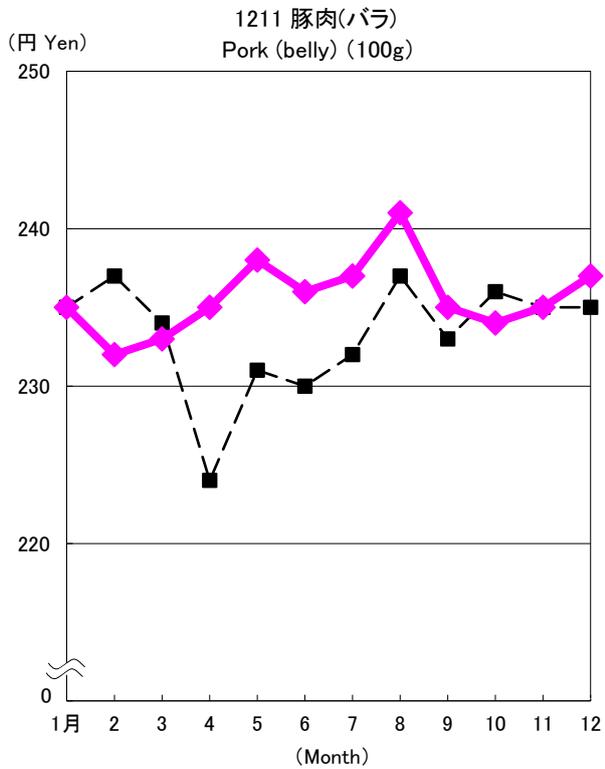
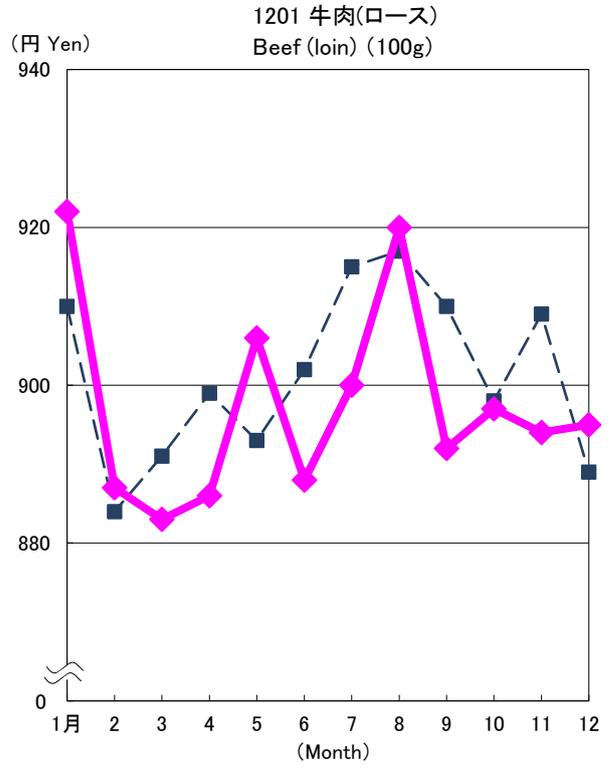
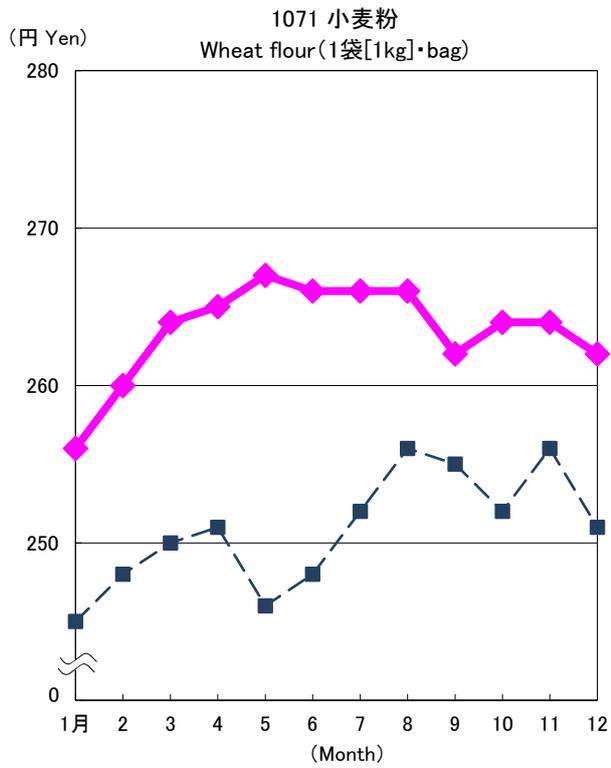
—■— 2018年 —◆— 2019年



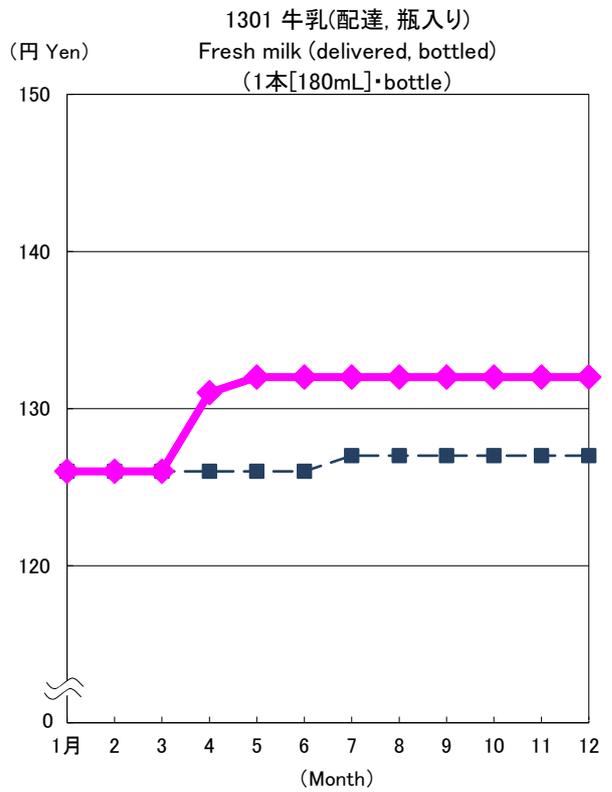
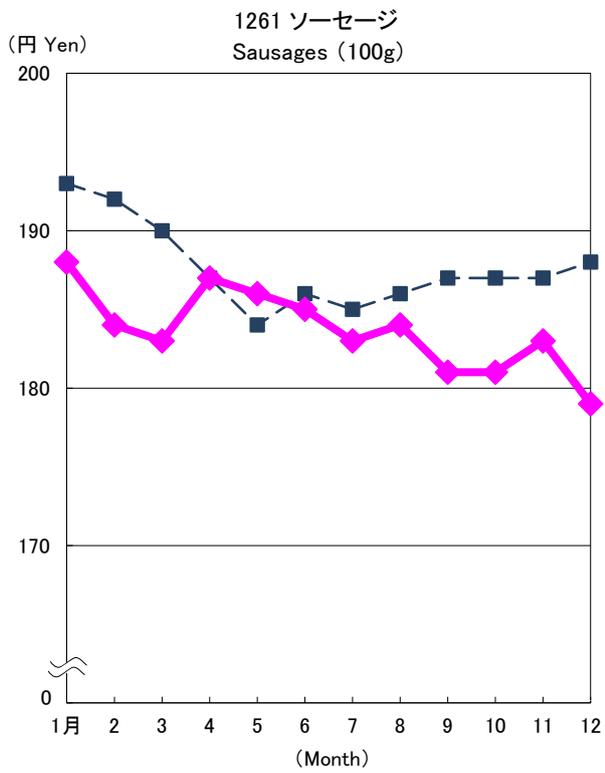
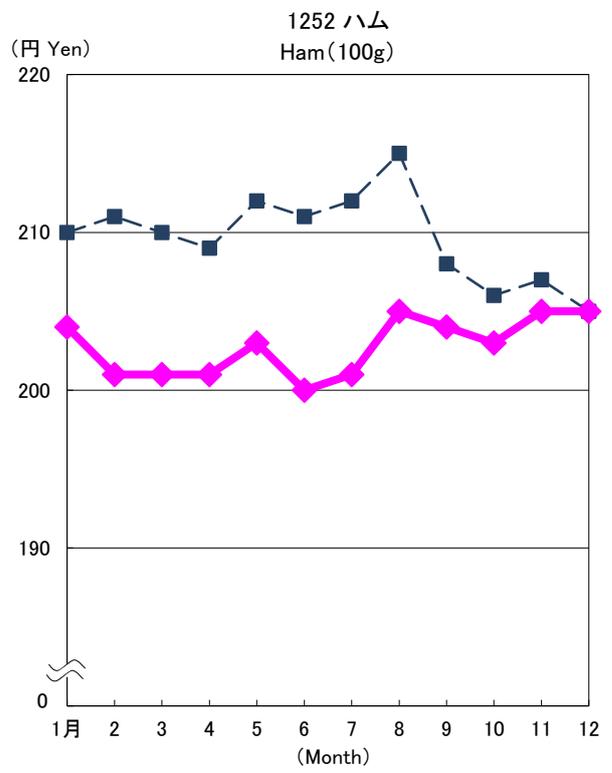
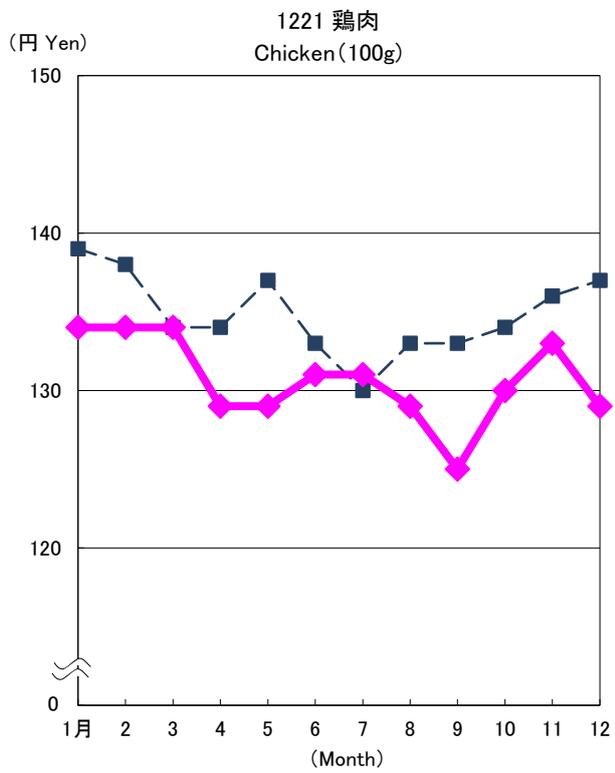
—■— 2018年 —◆— 2019年

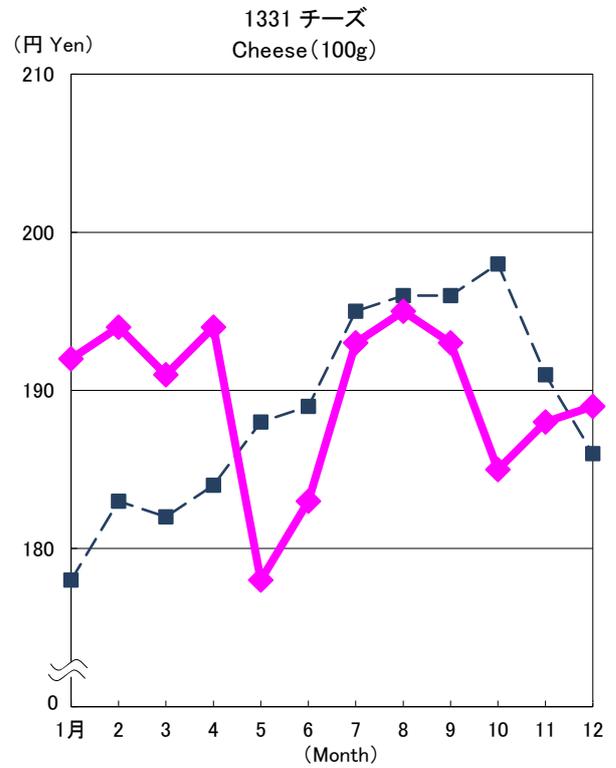
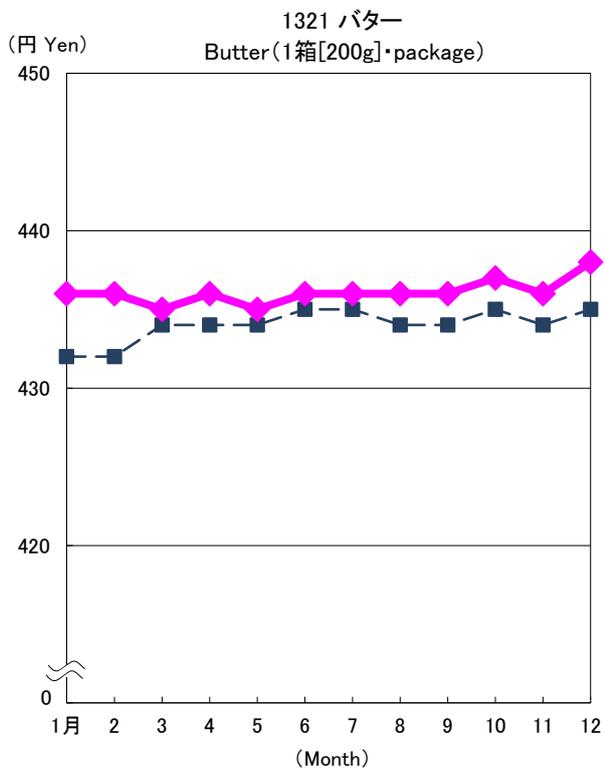
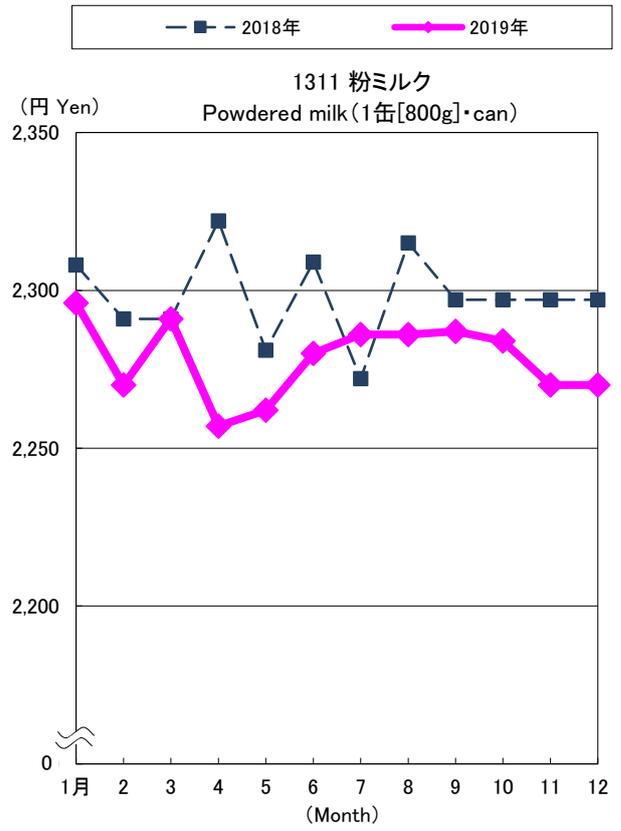
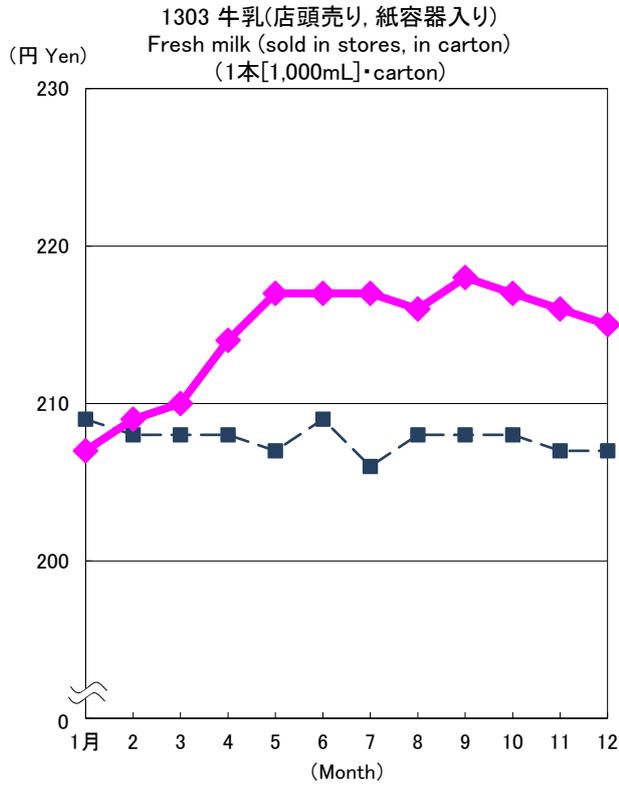


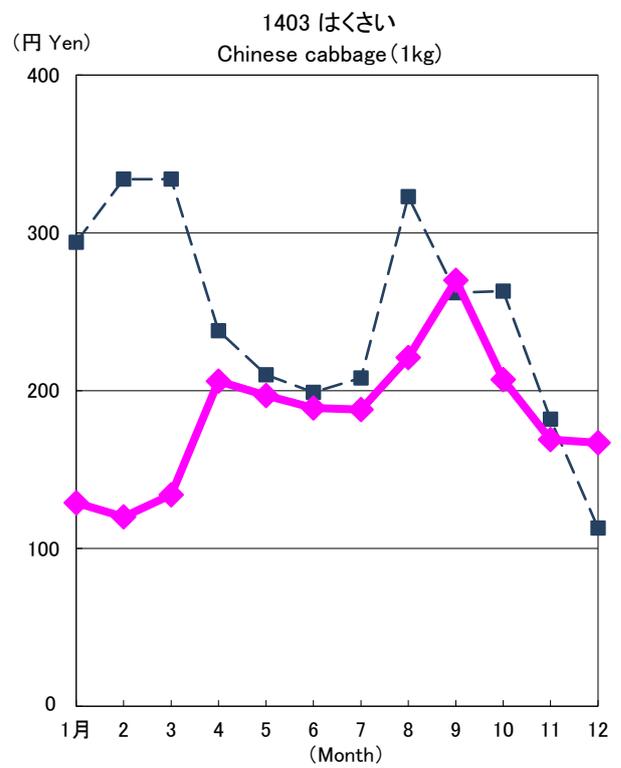
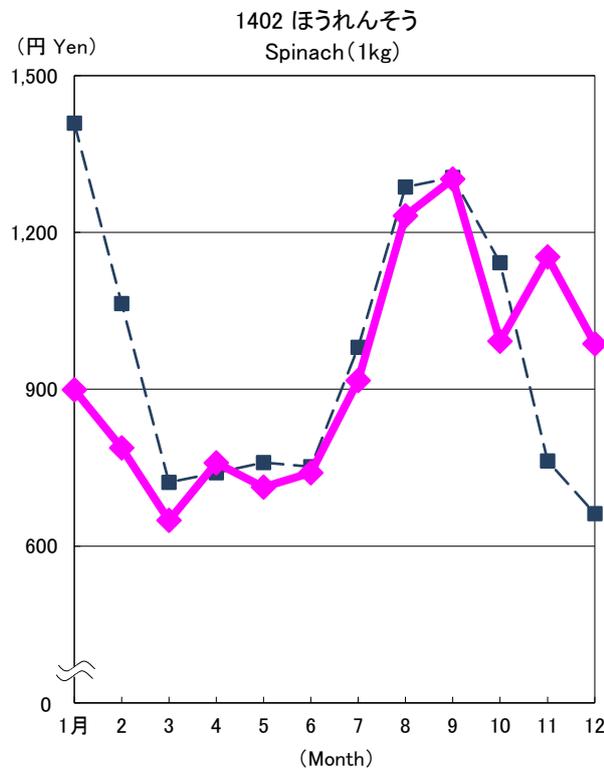
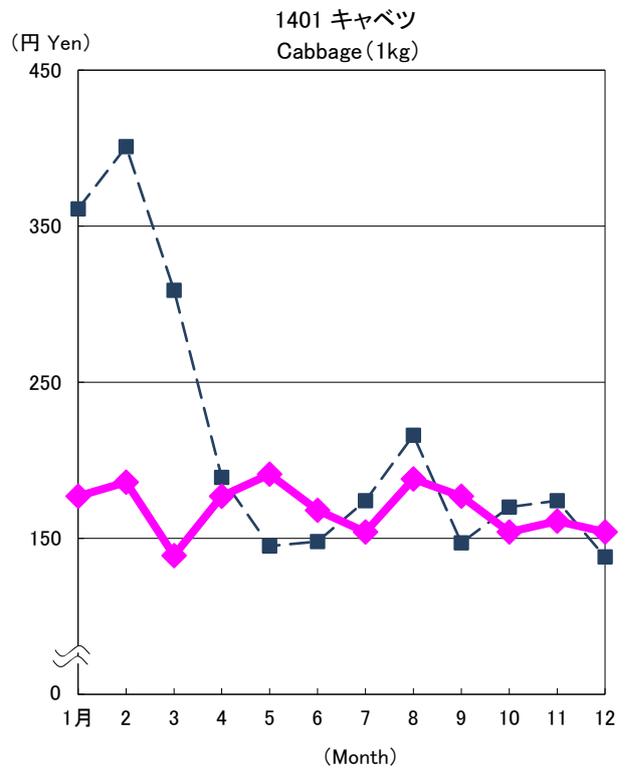
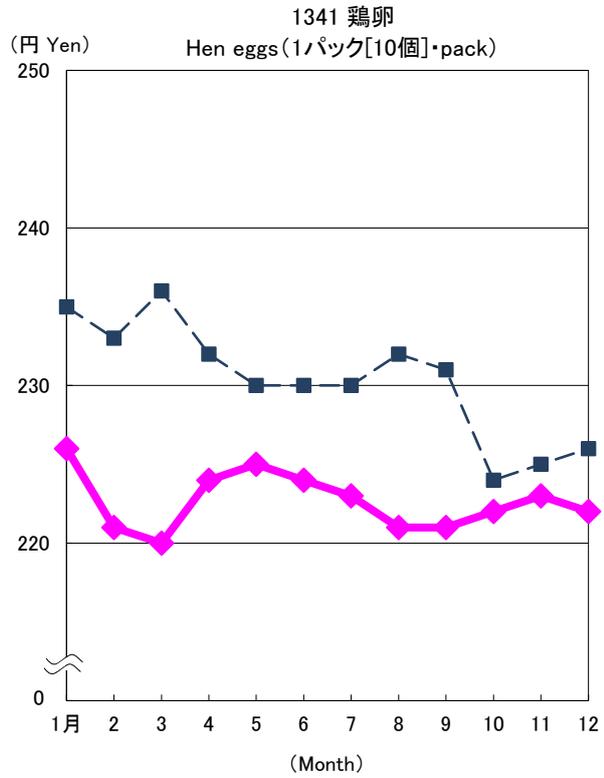
—■— 2018年 —◆— 2019年



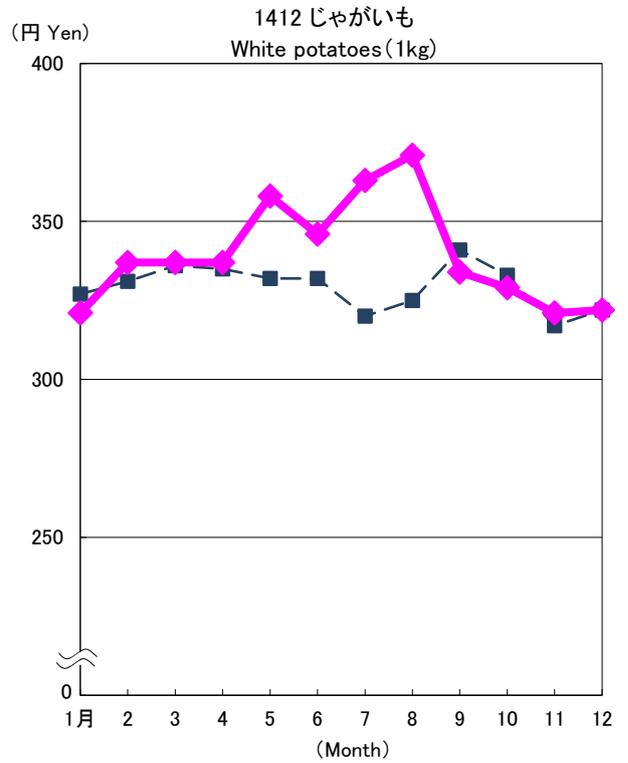
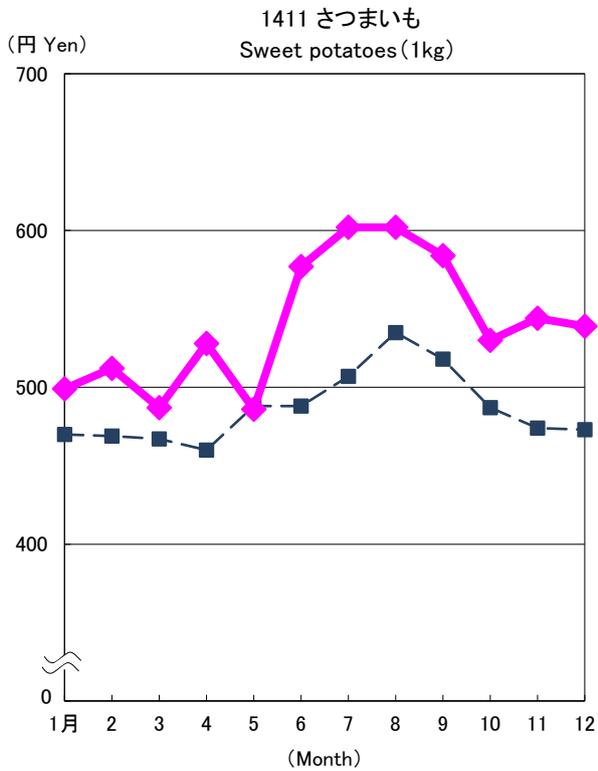
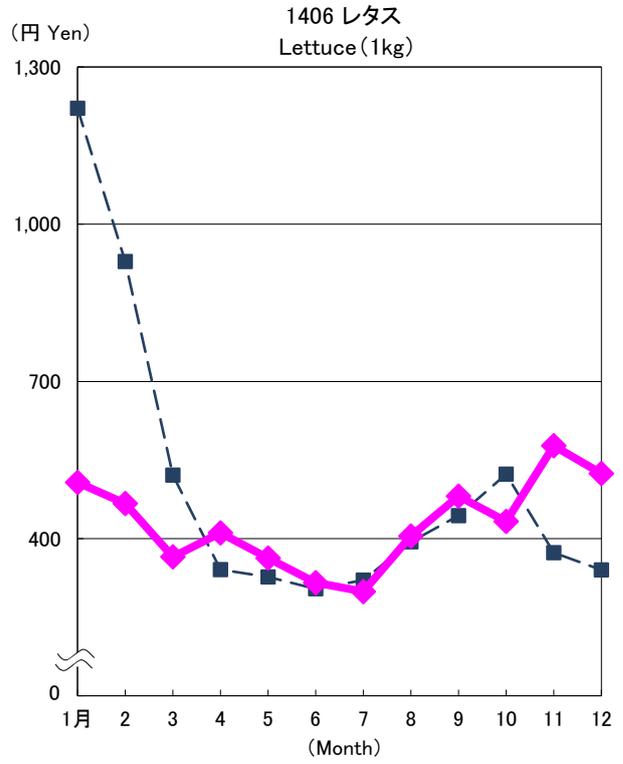
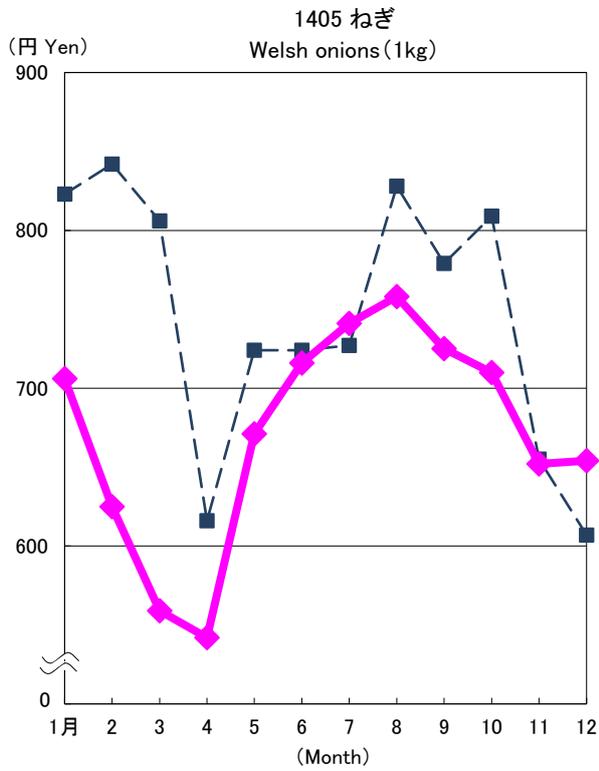
—■— 2018年 —◆— 2019年



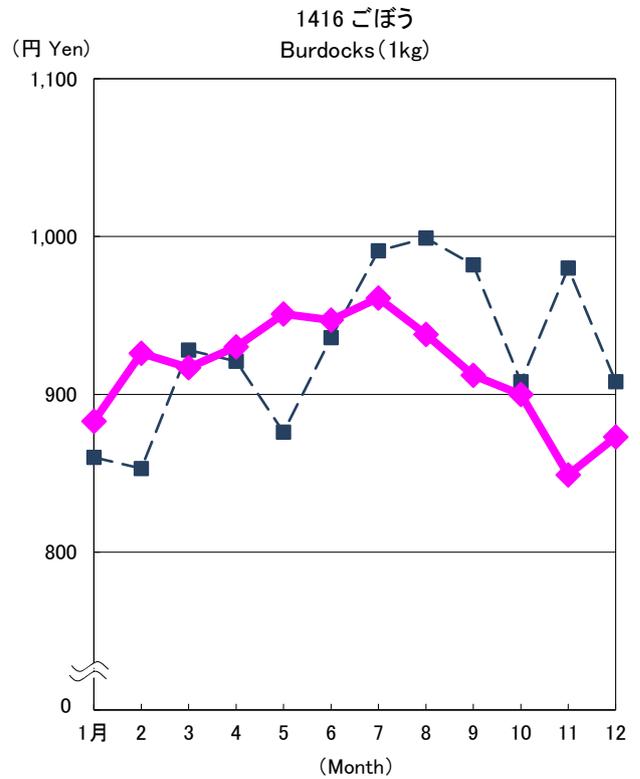
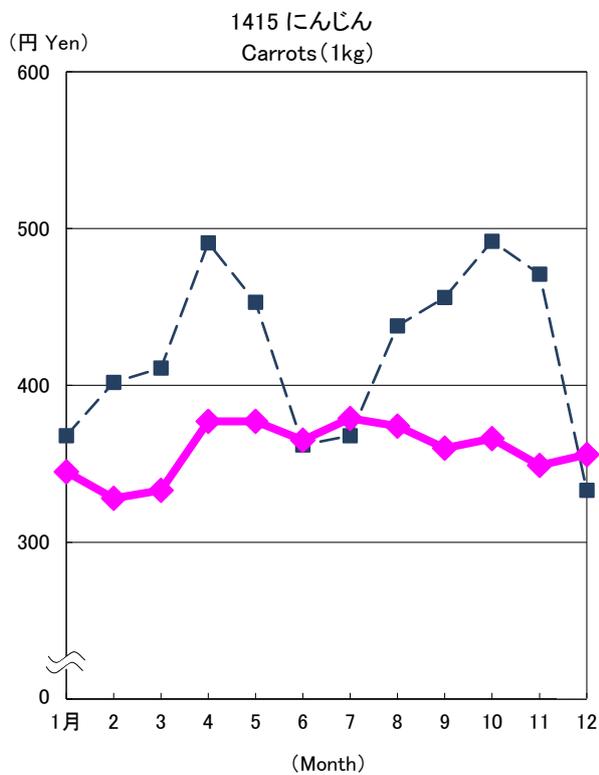
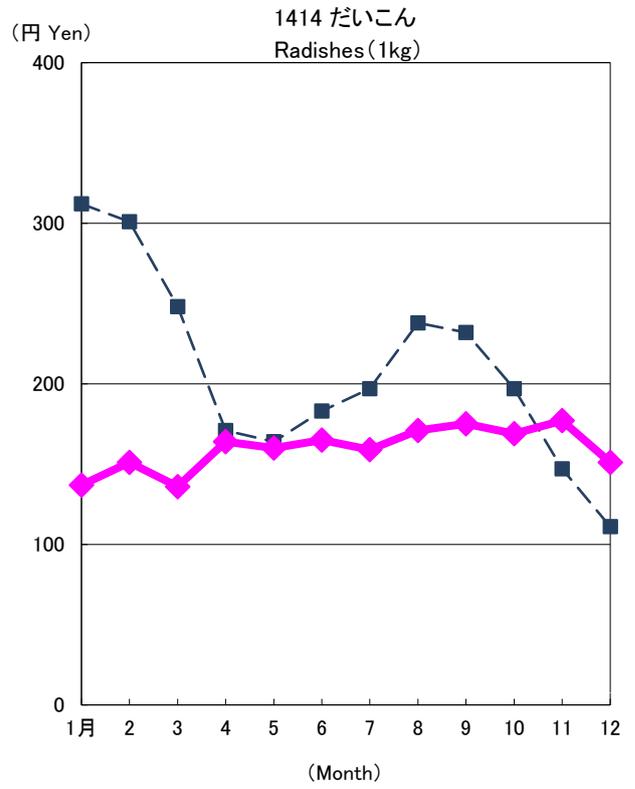
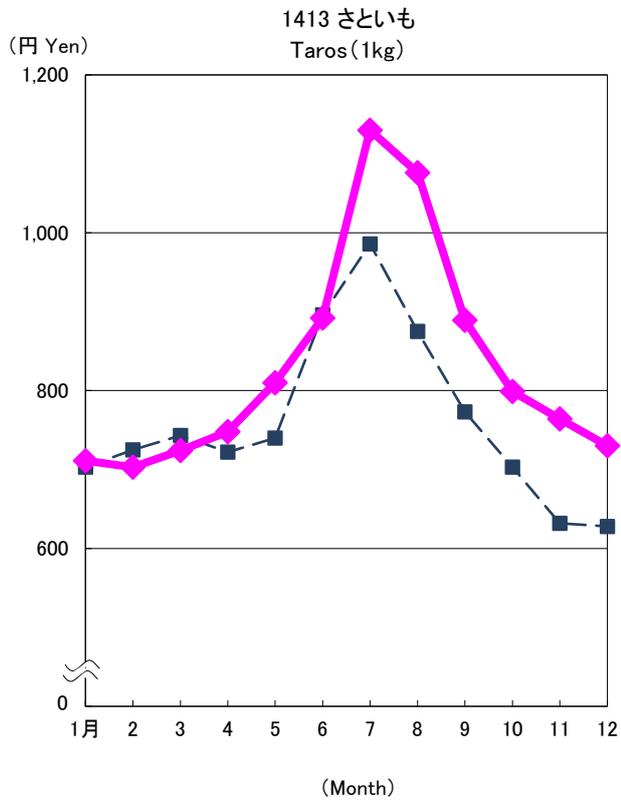


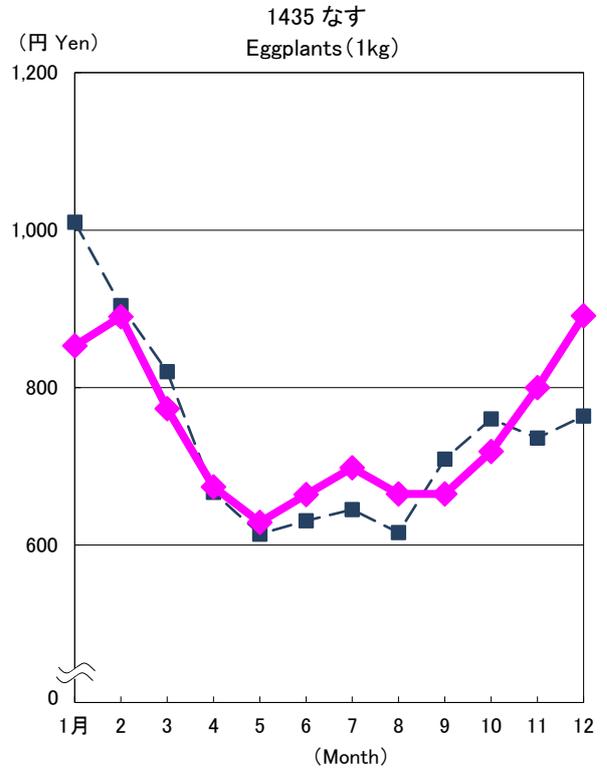
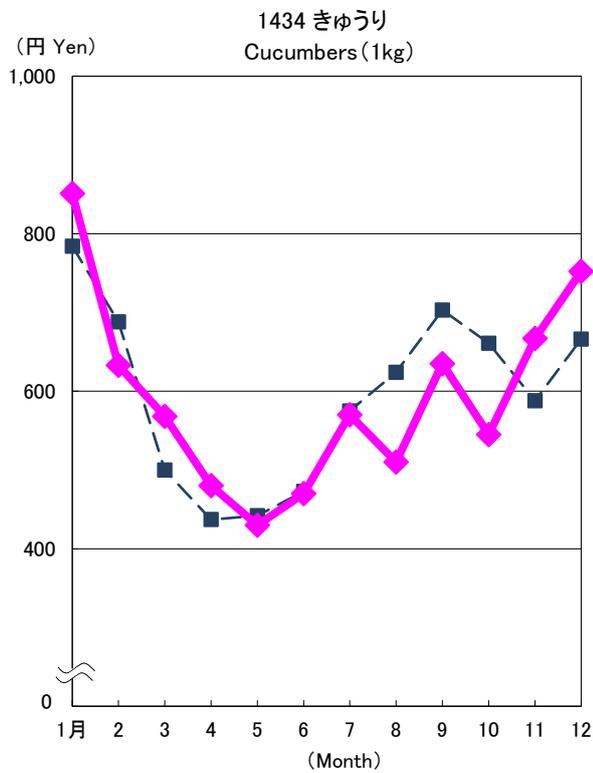
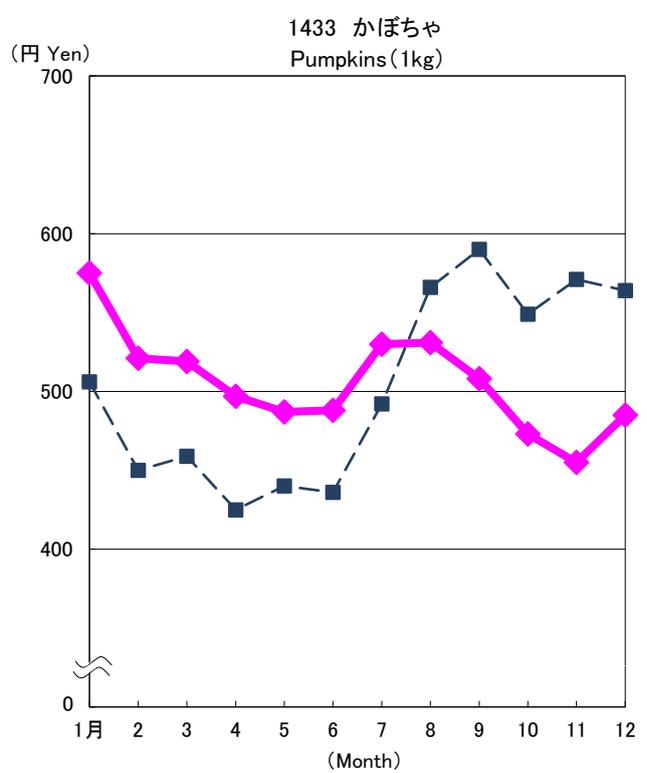
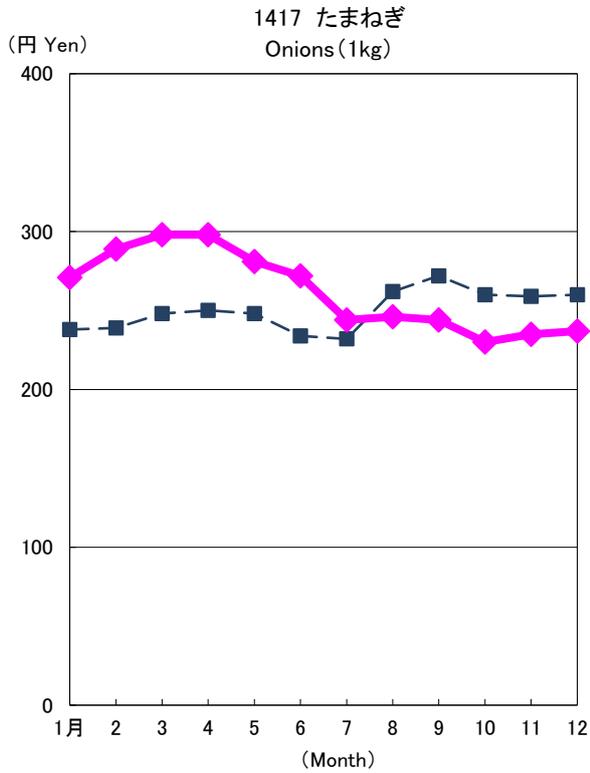


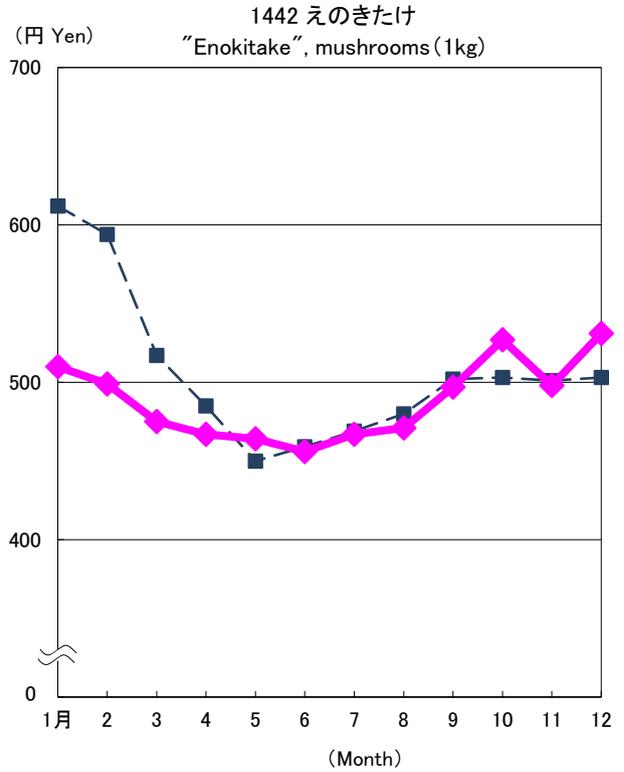
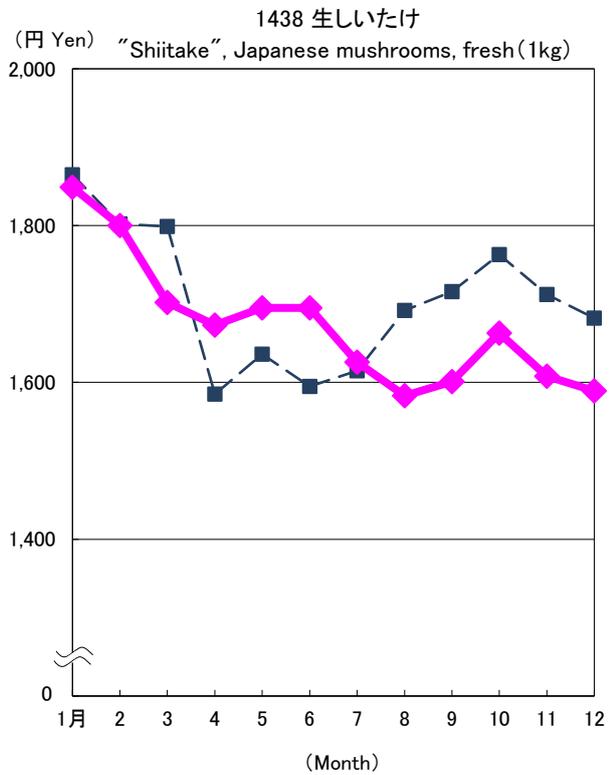
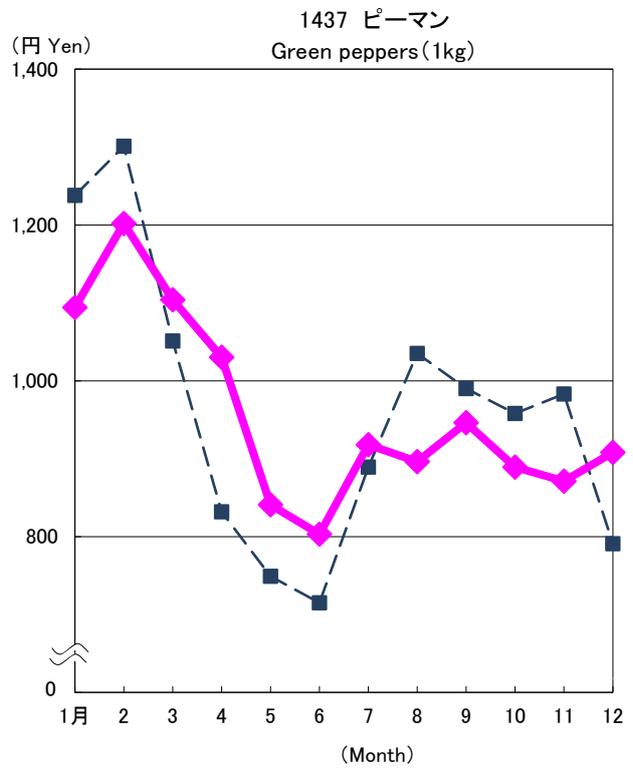
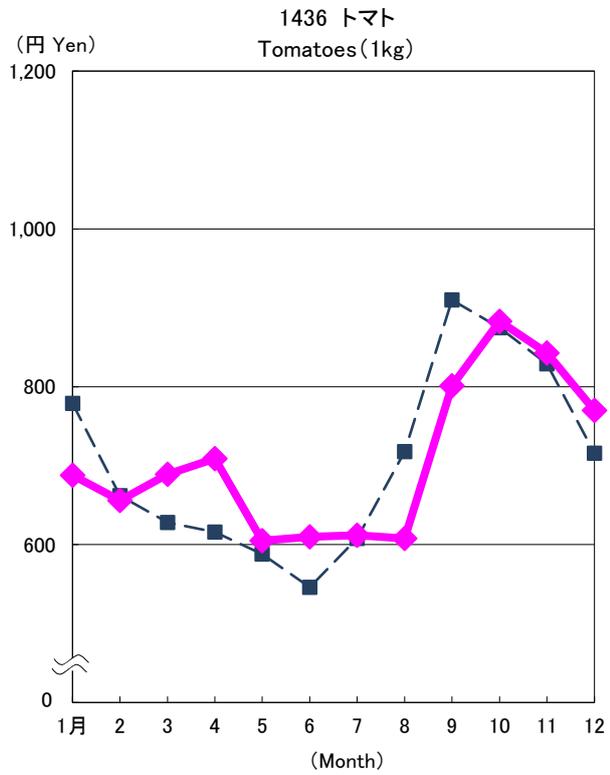
—■— 2018年 —◆— 2019年

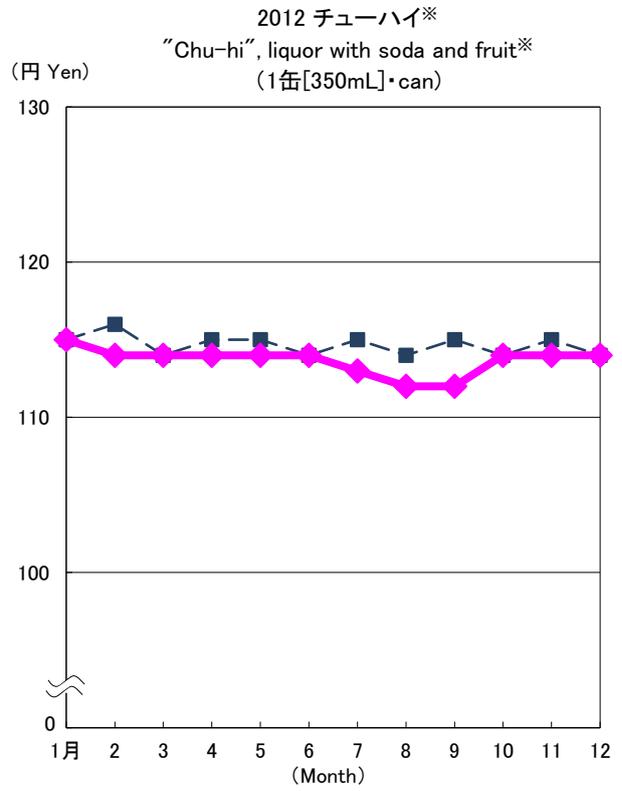
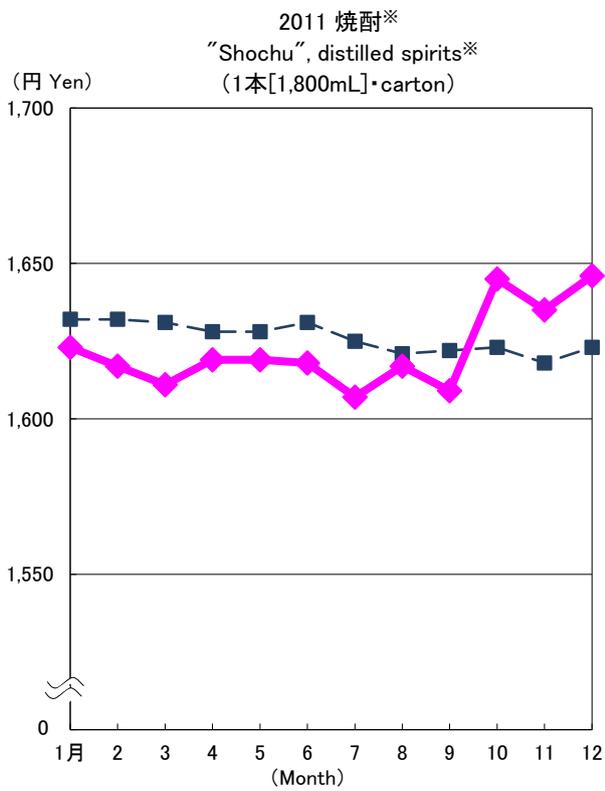
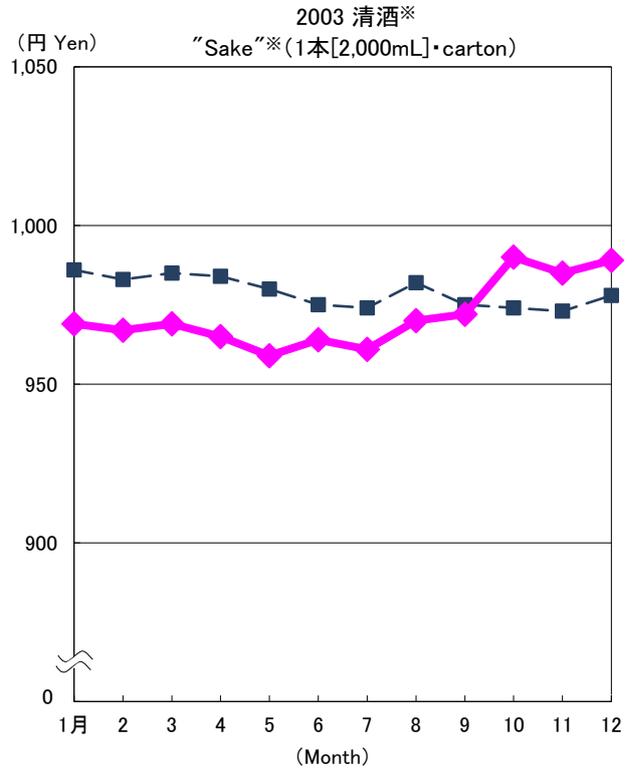
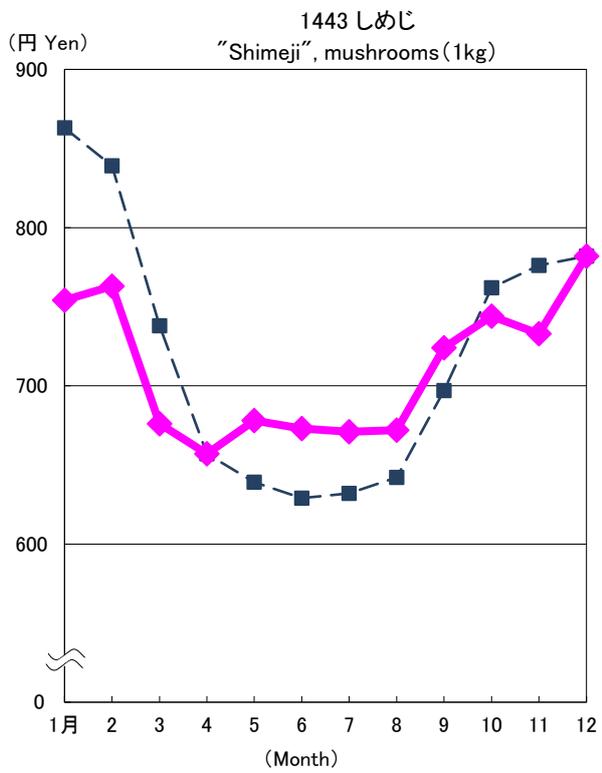


—■— 2018年 —◆— 2019年

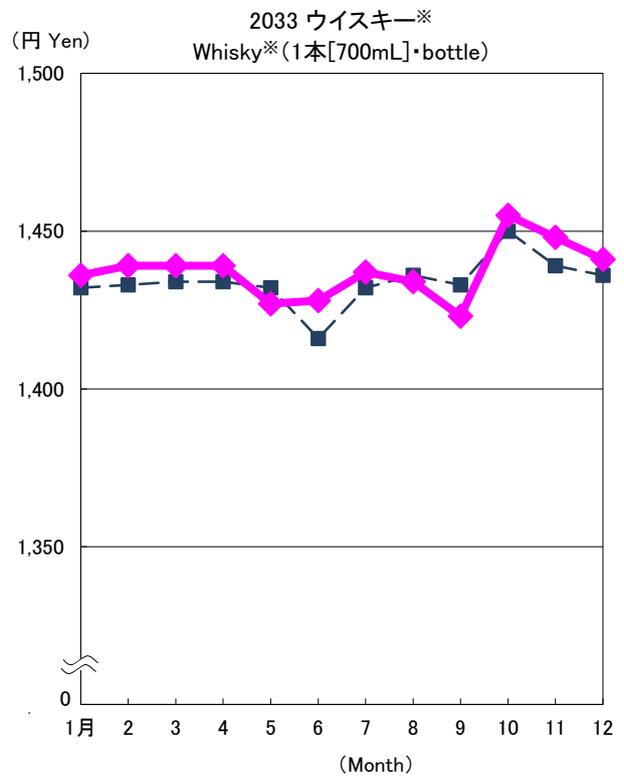
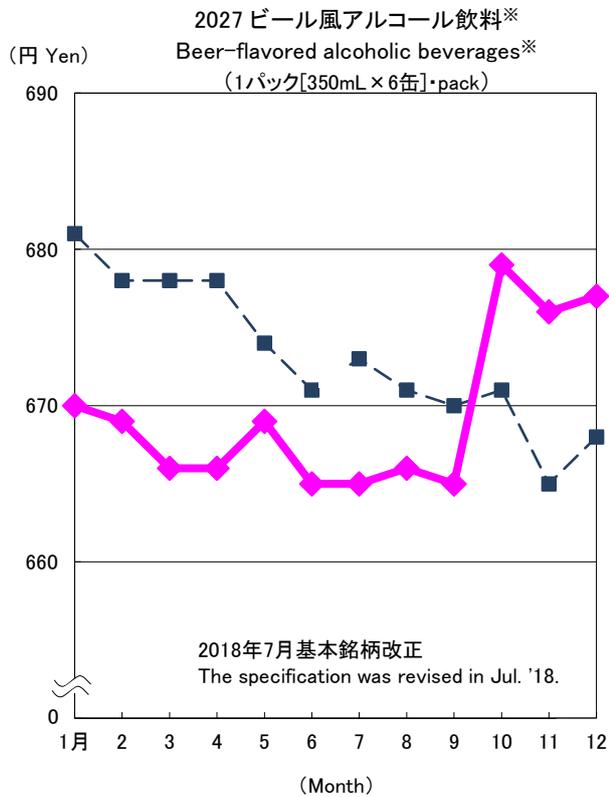
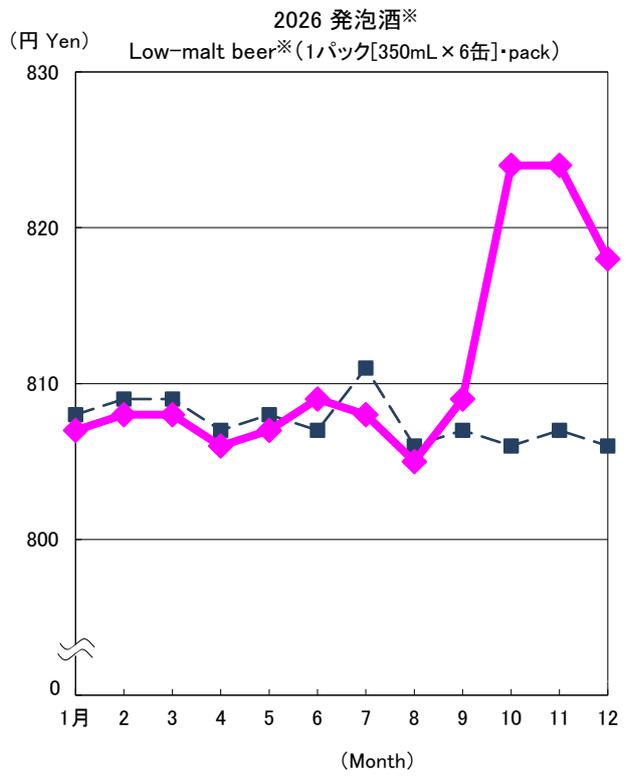
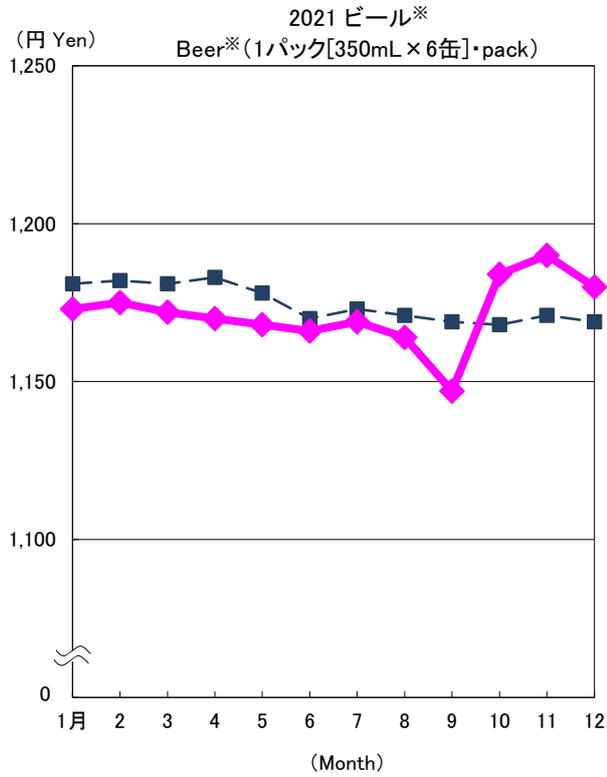




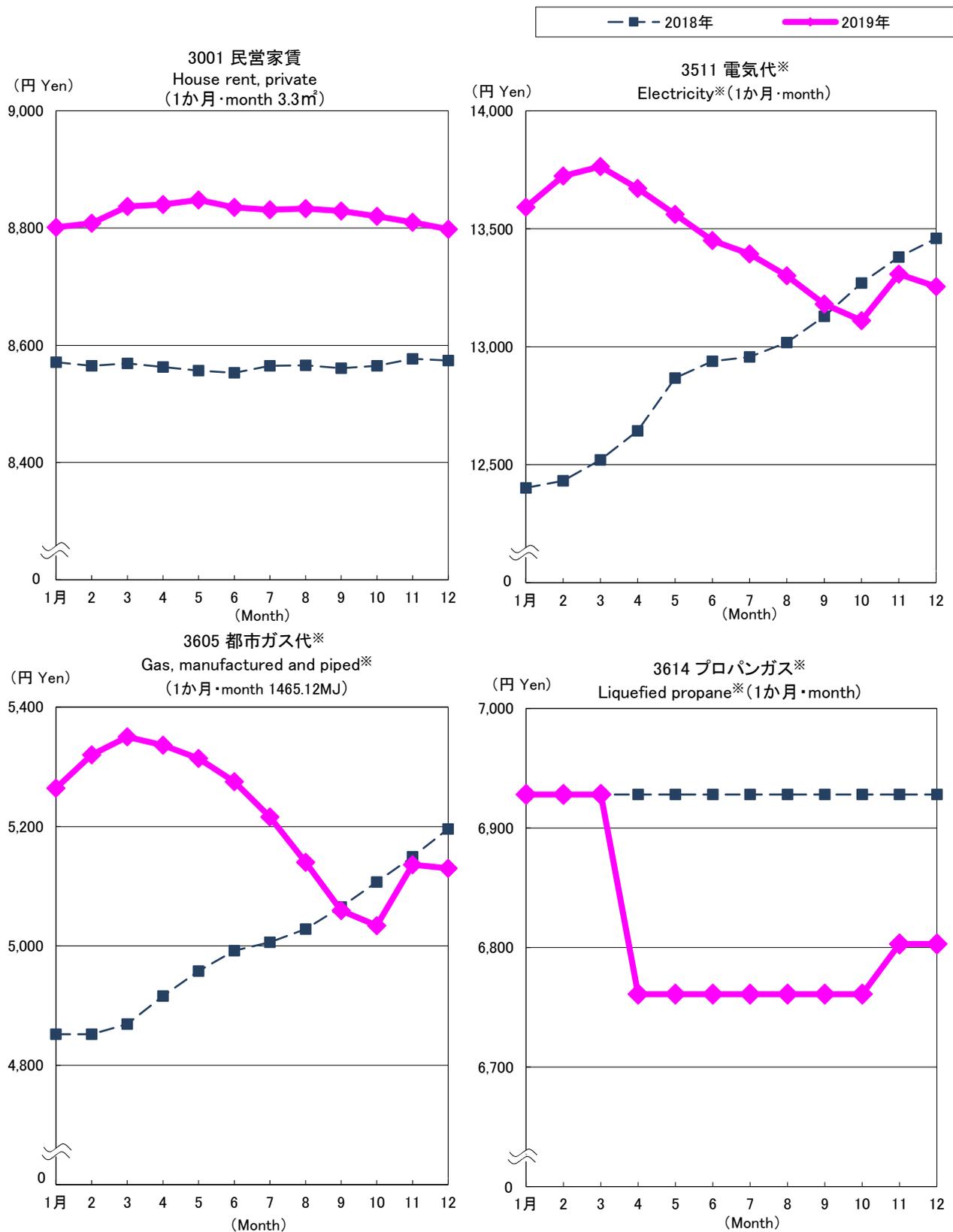




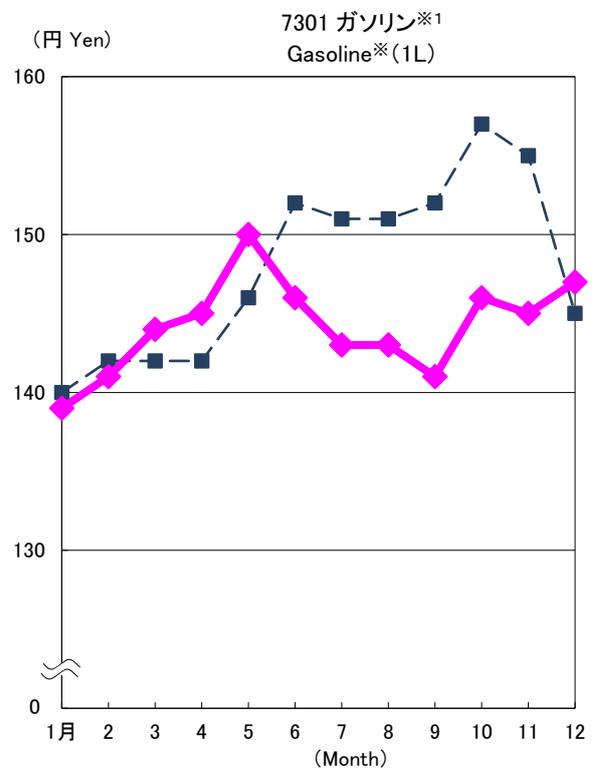
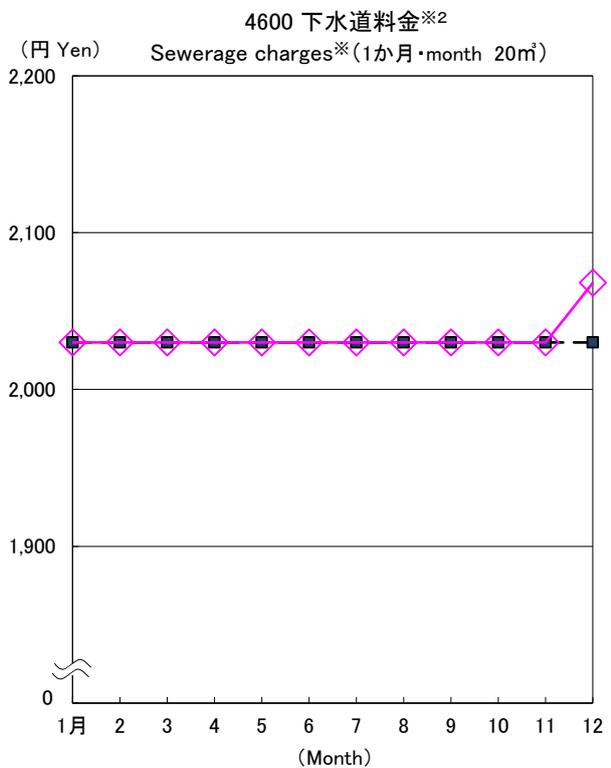
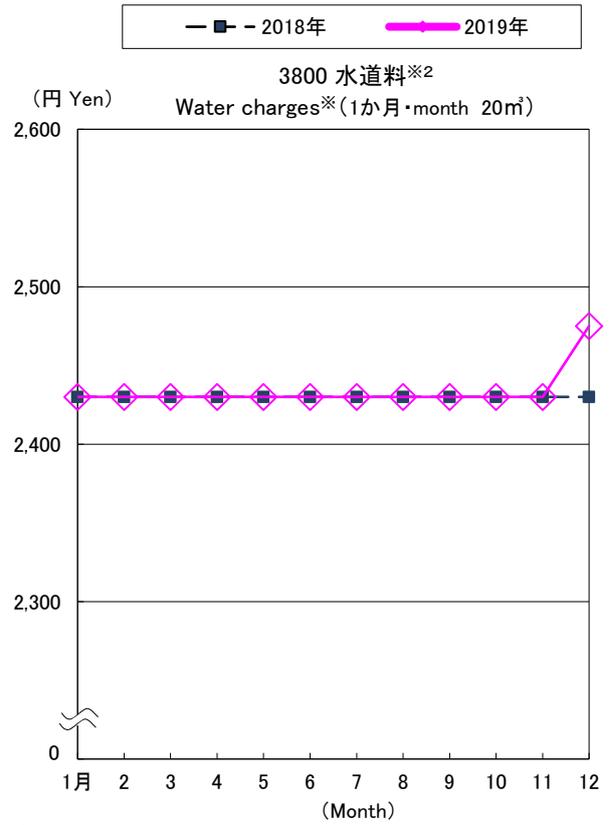
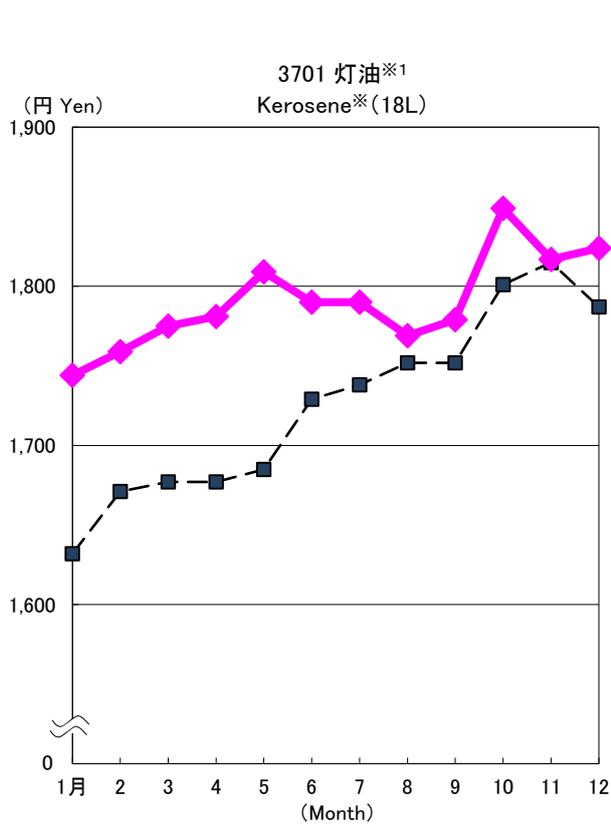
※ 2019年10月1日消費税率引上げ(8%→10%)品目
On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%).



※ 2019年10月1日消費税率引上げ（8%→10%）品目
On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%).



※ 2019年10月1日消費税率引上げ（8%→10%）品目（税率引上げ経過措置適用品目）
 On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%), with transitional measures.



※1 2019年10月1日消費税率引上げ(8%→10%)品目

On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%).

※2 2019年10月1日消費税率引上げ(8%→10%)品目(税率引上げ経過措置適用品目)

On Oct. 1, 2019, the consumption tax rate was raised (8% → 10%), with transitional measures.

【動向編コラム1】“卵かけご飯”の価格で見る70年

1950年に小売物価統計調査が開始されてから、2019年で70年目の節目を迎えました。ここでは小売物価統計調査の結果から、1950年から2019年までの70年間の物価について、昔から「物価の優等生」と言われる「鶏卵」をご飯にかけて“卵かけご飯”を中心に、その動きを見てみます。

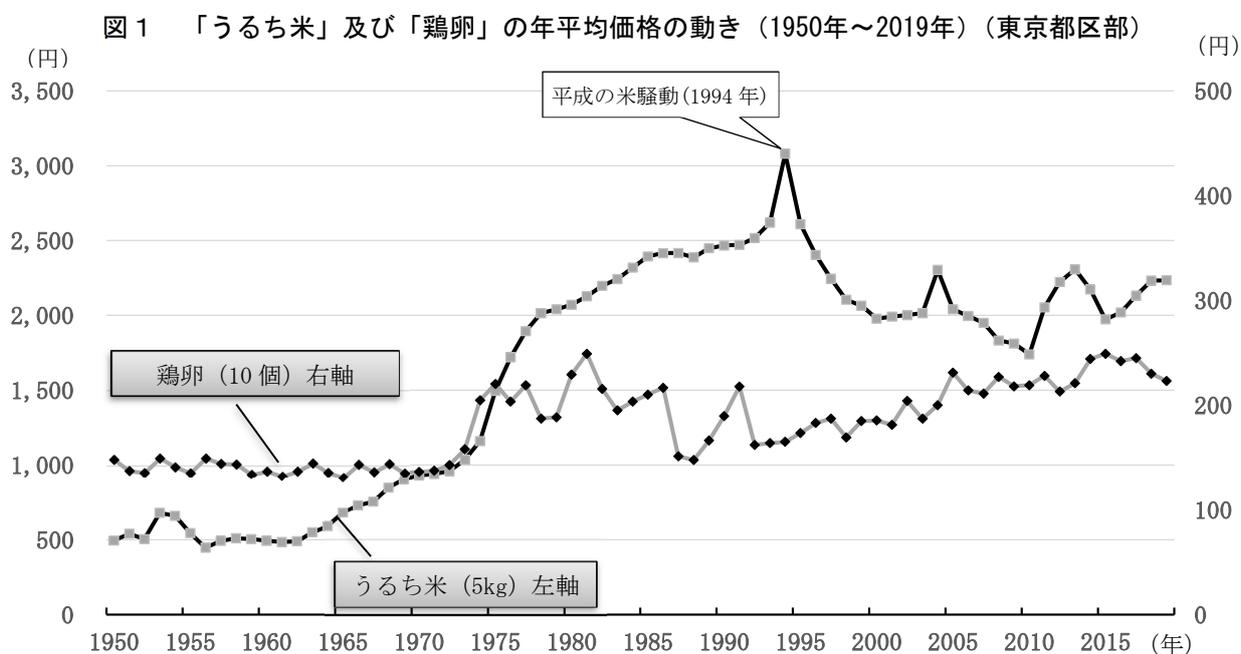
「うるち米」と「鶏卵」の価格

まず、“卵かけご飯”の材料となる「うるち米（5kg^{※1}）」と「鶏卵（10個^{※2}）」について、東京都区部の70年間の価格の動きを見てみます。

「うるち米」は、1960年代から1990年代前半にかけて上昇傾向にあり、この期間に5倍程度に価格が上昇していることが分かります。1994年は平成の米騒動^{※3}により一時的に最高価格を記録しましたが、2000年にかけて下落し、その後は、上昇下落を繰り返しています。

一方、「鶏卵」は70年間を通して価格は横ばいとなっており、「物価の優等生」の象徴となっています。

(図1)



出典：小売物価統計調査の結果より作成

- ※1 1kgを調査していた期間（1950年～1972年）及び10kgを調査していた期間（1973年～2001年）については、5kgに換算した価格
- ※2 400g（1個は60g）を調査していた期間（1950年～1961年）、100g（1個は60g）を調査していた期間（1962年～1972年）及び1kg（1個は60g）を調査していた期間（1973年～2001年）については、10個に換算した価格
- ※3 1993年の天候不順により、ササニシキを始めとした品種の生育不良となり、翌年の1994年にうるち米の流通が著しく減少し、うるち米の価格が値上がりした。

“卵かけご飯”の価格

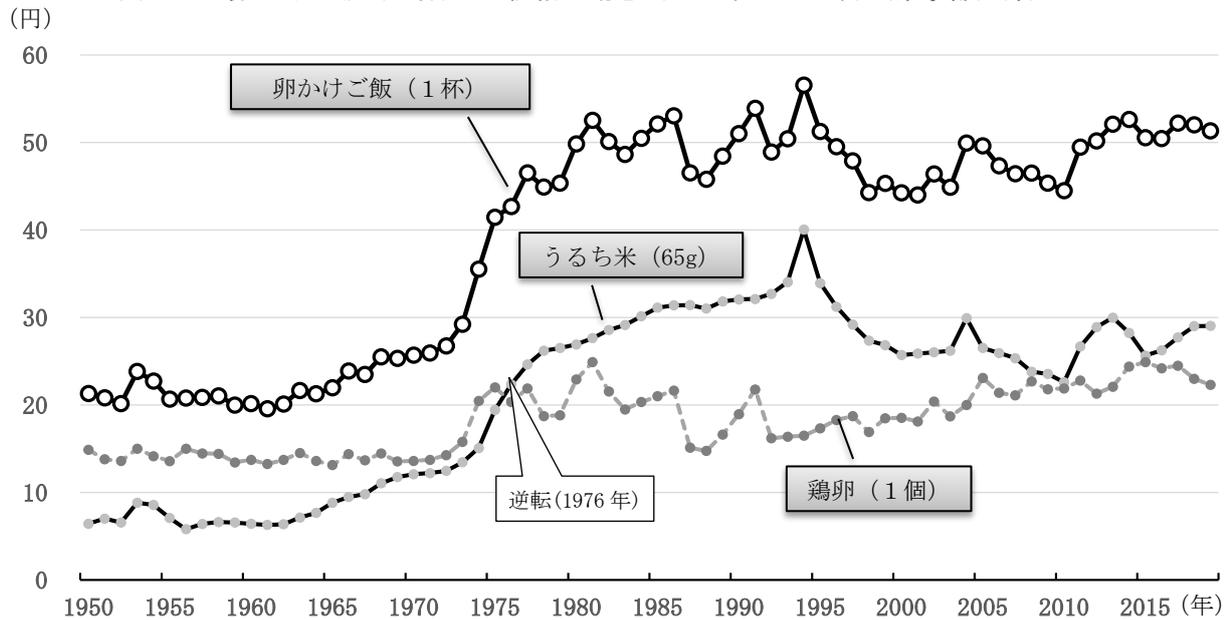
次に，“卵かけご飯”の価格をみてみます。ここでは，ご飯1杯＝ご飯150g＝うるち米65g^{※4}と換算し，「うるち米」65g，「鶏卵」1個の換算価格の合計を“卵かけご飯（1杯）”の価格とします。

“卵かけご飯（1杯）”は，1950年から1965年頃まで20円前後で推移しており，その後1965年から1980年にかけて上昇しており，この期間に価格が2.5倍程度になっていることが分かります。1980年以降は50円前後で推移しています。

また，“卵かけご飯（1杯）”の材料の価格をみると，1976年以降は「鶏卵（1個）」の方が安くなっていますが，1950年では，「鶏卵（1個）」が「うるち米（65g）」の2.5倍の価格となっており，当時は，「うるち米」よりも「鶏卵」の方が「高級食材」だったことがうかがえます。

(図2)

図2 “卵かけご飯（1杯）”の価格の動き（1950年～2019年）（東京都区部）



※4 公益社団法人米穀安定供給確保支援機構のHP掲載情報による。

“卵かけご飯”の「価値」の推移

最後に、各年代における“卵かけご飯”の実質的な価値をみるため、賃金と比較してみます。

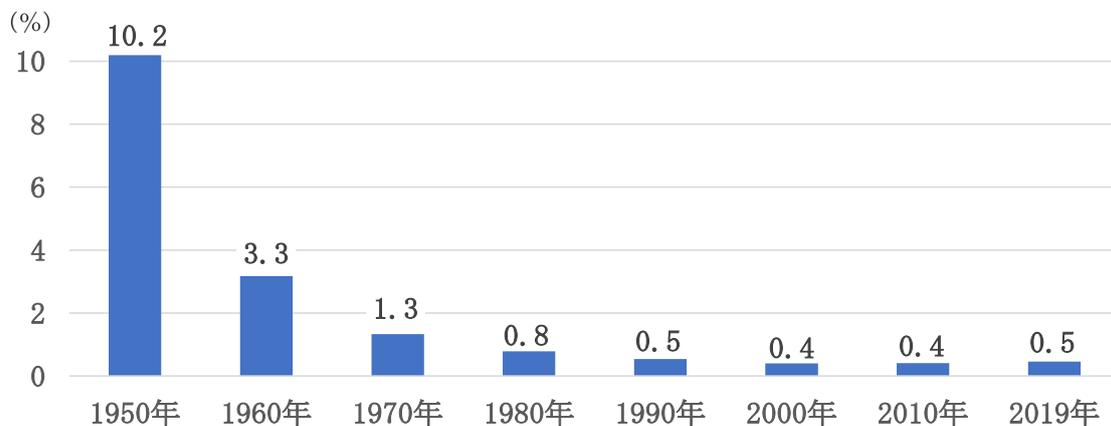
ここでは、“卵かけご飯”1か月分（毎朝1杯×30日＝30杯とします。）が月額給与^{※5}に占める割合を計算することにより、その価値を確かめてみます。

1950年では、“卵かけご飯”1か月分が639円と、月額給与の10.2%の価値があったこととなります。2000年になると、“卵かけご飯”1か月分が1,327円と、月額給与の0.4%の価値となり、1950年と比較すると25分の1程度となっています。当時の“卵かけご飯”は現代の20倍以上の価値のある「ご馳走」だったことが想像できます。

なお、“卵かけご飯”の価値を、1か月当たりの食費^{※6}に占める割合でみると、1950年は44.5%であったのに対し、2000年は5.9%と、9分の1程度となっています。

(図3)

図3 “卵かけご飯”の価値（月額給与との比率）の推移
(1950年～2019年) (東京都区部)



参考表 “卵かけご飯”の価格及び初任給の推移 (1950年～2019年) (東京都区部)

	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2019年
①卵かけご飯1杯(円)	21.3	20.2	25.7	49.8	51.0	44.2	44.5	51.3
②卵かけご飯1か月分(円) 【=①×30日】	639	605	771	1,495	1,531	1,327	1,335	1,540
③月額給与(円)	6,274	18,458	57,900	190,700	282,800	330,000	323,000	338,000
④月額給与に占める割合(%) 【=②÷③】	10.2	3.3	1.3	0.8	0.5	0.4	0.4	0.5
⑤1か月当たりの食費 (1人当たり・円)	1,436	2,882	6,807	17,519	22,179	22,343	21,865	25,339
⑥食費に占める割合(%) 【=②÷⑤】	44.5	21.0	11.3	8.5	6.9	5.9	6.1	6.1

※5 各年における「賃金構造基本統計調査報告(厚生労働省)」による全産業計・全年齢の「きまって支給する現金給与額」の平均値(1950年は同統計調査の前身となる「個人別賃金調査結果報告(労働省)」による各職種・全年齢の「1か月間の平均賃金」の平均値)

※6 各年における「家計調査(総務省統計局)」による「1世帯当たり年平均1か月間の支出(二人以上の世帯)」及び「世帯人員」を基に1か月当たりの食費(1人当たり)を算出。1962年以前は人口5万以上の市の平均、1963年以降は全国平均、1999年以前は農林漁家世帯を除く結果、2000年以降は農林漁家世帯を含む結果

【動向編コラム2】「いくら」の価格の動き

2019年は、ここ数年続いた“さけ”の不漁が一服したことにより、「いくら」の卸売価格に下落がみられました。ここでは、2018年及び2019年の「いくら」の価格について、卸売価格と小売価格統計調査の結果による小売価格の動きをみてみます。

小売価格と卸売価格の動き

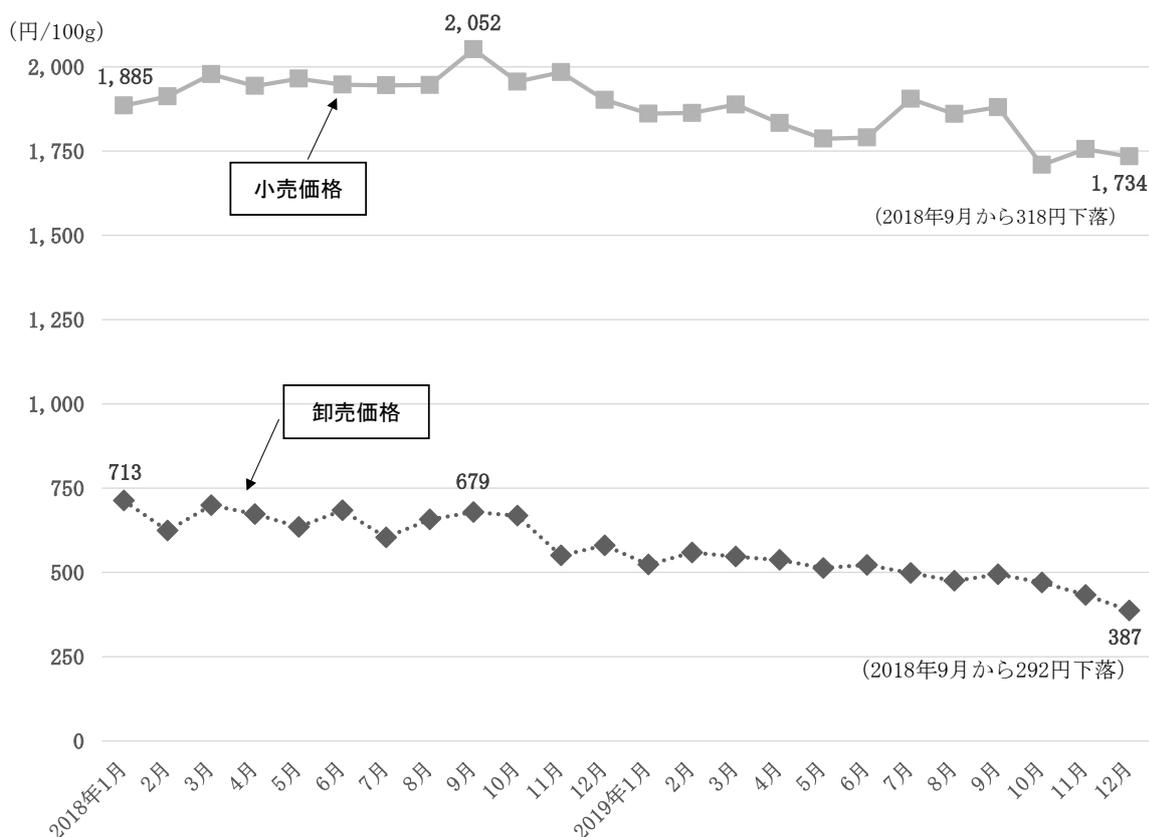
「いくら」^{※1}の東京都区部の小売価格は、2018年1月から8月までは横ばいとなっていました。2018年9月からは下落傾向となっています。東京都の卸売市場の卸売価格^{※2}も同時期に下落傾向となっています。

2018年9月から2019年12月にかけての価格の下落幅をみると、卸売価格は100g当たり292円、小売価格は100g当たり318円と、ほぼ同額の下落幅となっており、小売価格の動きはほぼ卸売価格の動きで決まっていることがうかがえます。

※1 さけ卵、塩漬又はしょう油漬、並

※2 2018年1月～9月は築地市場、2018年10月以降は豊洲市場の卸売価格

図 「いくら」の卸売価格及び小売価格の動き（2018年及び2019年）（東京都区部）



出典：卸売価格は、東京都卸売市場提供「市場統計情報」より作成

【動向編コラム3】2019年10月の消費税率引上げ前後における飲料の価格動向について

2019年10月、消費税率が10%に引き上げられましたが、酒類以外の飲食料品^{*}については、外食の場合を除いて軽減税率8%が適用されています。

ここでは、消費税率が異なる、酒類（消費税率10%）と酒類以外の飲料（消費税率8%）について、東京都区部における消費税率引上げ前後の4か月間（2019年8月から11月まで）の価格の動きをみてみます。

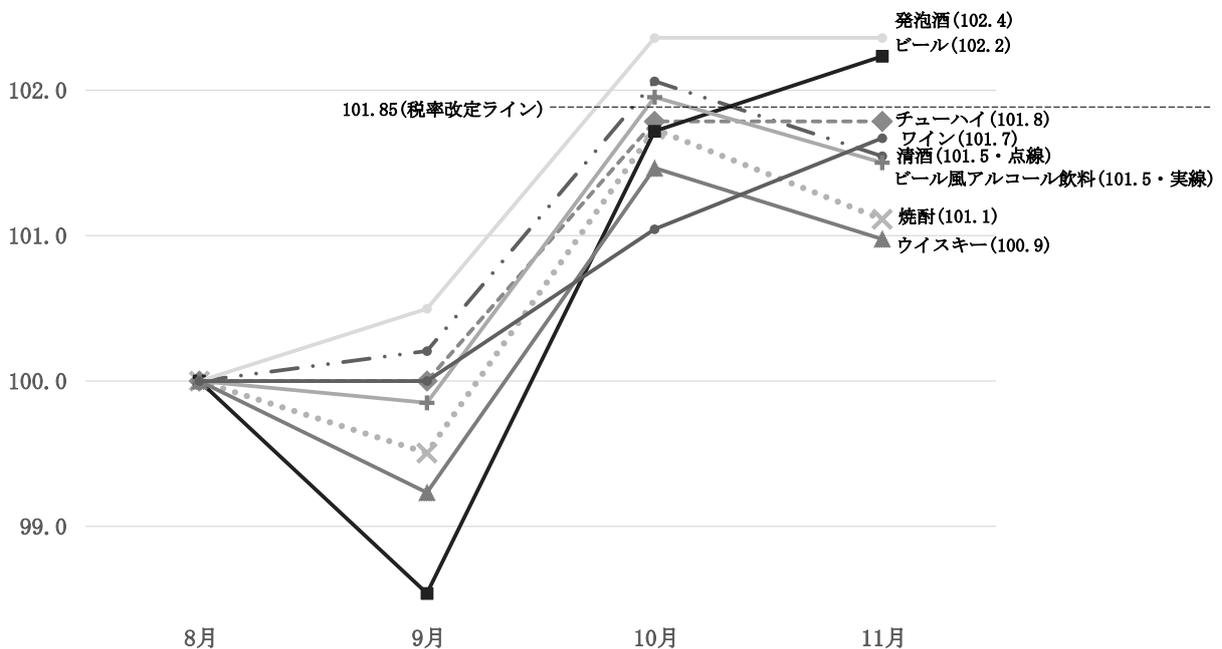
^{*}食品表示法に規定する食品（酒税法に規定する酒類を除く）

酒類の価格の動き

小売物価統計調査では、消費税率が改定された酒類について、8つの品目（発泡酒、ビール、チューハイ、ワイン、清酒、ビール風アルコール飲料、焼酎及びウイスキー）を調査しています。

東京都区部における小売価格について、2019年8月を100として、その後の価格の動向をみると、全ての品目において10月及び11月は100を上回っており、価格が上昇していることがわかります。8月から11月にかけて価格が最も上昇した品目は「発泡酒」（102.4）であり、次いで「ビール」（102.2）、「チューハイ」（101.8）などとなっています。一方、「ウイスキー」（101.0）や「焼酎」（101.1）の価格は上昇幅が小さくなっています。（図1）

図1 酒類の価格の動き（2019年8月～11月）（東京都区部）



消費税率改定前後の価格改定の状況について、2019年8月と11月の価格を単純比較すると、「発泡酒」及び「ビール」については、税率改定（ $1.10/1.08=1.85\%$ ）以上の価格上昇となっています。一方、「ウイスキー」、「焼酎」などでは、税率改定よりも低い価格改定状況となっています。

酒類を除く飲料の価格の動き

次に、小売物価統計調査の調査品目のうち、消費税率改定の影響のない、酒類を除く飲料6品目（コーヒー飲料，コーラ，スポーツドリンク，ミネラルウォーター，茶飲料及び果実飲料（果汁入り））をみてみます。

東京都区部の小売価格について、2019年8月の価格を100として、その後の価格の動向をみると、半数の品目において2019年10月及び11月が100を上回っています。8月から11月にかけて価格が最も上昇した品目は「コーヒー飲料」（105.9）であり、次いで「コーラ」（102.2）, 「スポーツドリンク」（102.0）などとなっています。この消費税率改定の機会に、原材料費や物流コストなどを踏まえて価格が改定されている商品もある状況がうかがえます。（図2）

図2 酒類を除く飲料の価格の動き（2019年8月～11月）（東京都区部）

